

子供の成長と季節の廻り替わりは早い。オリエンも真夏の愛知WOCから秋のフットシーズンinとなった。

遅々として進まなかったJOA改革も執行役員が代替わりして組織とシステム改革に取り組み変革が実感できるようになった。

競争のスポーツではあるが日常生活にも活用できるナビゲーション技術を幼少のころから身につけさせる必要性を感じる。

スイスからメールと写真

爺爺「ゆき!マルクのお父さんからメールと写真が届いてるよ」

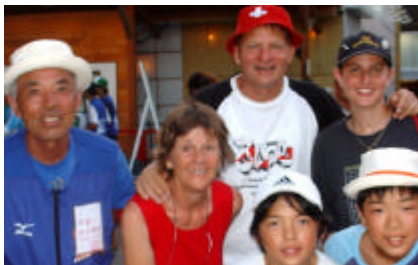


写真 (6人の集合写真)

ゆき「開会式会場で写した写真だね」
基生「写真だとマルクは女性みたいだね、とてもロングで世界2位になった人とは見えないね」

爺爺「スイスに来るときは必ず知らせなさい、もし幸がスイスでスキーオリエンテーリングを勉強したいときは家に泊める事もできるって」

ゆき「あのおじさんがスイスに来るときはドイツ語かフランス語か英語を話せるようになりなさい、と言ってたね。ぼく、何を覚えたらいいかな?」

爺爺「先ず英会話が出来るといいと思うよ、世界の公用語だし」

スタート時刻を大会直前に

変更した東日本(主催)大会

競技規則でプログラムは1週間前まで届くように記載されているが、今年の東日本では大会10日前に配達された。過去の大会に運営責任者も経験している爺爺は、JOAの変わり身の早さにとても驚いた。

残念な事にスタートリストでEクラス以外全クラス画一的に1分間隔で割り付けてあったことだ。

早速、インターネット上で若年クラスにエントリーしているお母さんから、「ダンゴ」「つるみ」により公平な競技に疑義と若年クラスの興味阻害と普及の観点から、運営に支障が生じないならばと断りながら変更の要望が出された。参加者が少ない女子ベテランも同調、爺爺を始め数年前からスタート間隔に独自の方式を採用しているTクラブ運営者が持論を展開した。しかし、主催大会従来の対応から誰も変更の期待はしていなかった。

ところが、要望してから5日後、主催者・主管者は変更に踏み切った。

プログラムが規則通り発送された蔭の効果であります。

保護者・関係者に連絡された全文を経緯をご存知でない読者にあえて公表し、大会運営責任者にその英断に敬意を表し、感謝するものです。

第31回東日本オリエンテーリング大会スタート時刻の変更について

この度は、大会にお申し込みいただきありがとうございます。

先日、お送りしましたプログラムでスタートリストを公表いたしました。しかし、「若年者クラスにおいて、十分な競技の公正を保てるスタート間隔が確保されていない」ものであったと主催者並びに主管者として判断いたしました。参加者並びに保護者・関係者の皆様に深くお詫言致します。

再度検討の結果、公正さ確保のため、複数人エントリーのある若年者対象の「M12・M14・W14」の3クラスにつきましては、以下のように「スタート時刻の変更」を致します。

(ご来場を早めることがないように、変更のためスタート時間が早まらないようにも配慮いたしました。)

ご理解の上、変更後の時刻をお間違いないようよろしくお願いいたします。

本誌の記事がどの程度効果を発揮するか疑問ですが、ついでに難易度について要望です。

M/W16以下のクラスの難易度Aは非常に疑問に思います。該当する参加者年代は中学生ですがその人数は決して多くないしむしろ限定的である。Aの難易度をつけることにより、たまたま参加しようとした中学生が要項の説明を見て尻込みし参加しづらくしているように思います。これらのクラスでAが必要なものは直近上位の難易度Aクラスに参加できるように工夫し、現在の16クラスにAは必要ないと考えます。

代わりに、ベテランクラスは今後高齢化世代の参加者増が見込まれますので、彼らに(筆者も含めて)オリエンテーリングの満足度を提供する意味でも、主催大会では70Aで参加年代を上限にすることなくWMO C並みにAクラスの増設を望みます。

経験と自信

東北大会スプリント

東日本の翌日、東北大会が同じ会場でリレーが開催された。

ゆき「爺爺と僕と基生でチームが組めなかったの?」

爺爺「組めないわけではないけど競争にならないと思って、個人でもスプリントがあるからそれでいいと思ったんだ。リレーに出なかったの?」

ゆき「僕、リレーに出たことがないしどんなものかわからないけど瑞希君も出てるからどんなもんかなあと思っただけ」

爺爺「そうか、リレーに関心があるんなら次の機会に考えて見ましよう」

スプリントが終了し速報を見るー

ゆき「ぼく、内山さんに勝ったって」

爺爺「まさか?!」

基生「内山さんが、幸に負けたっていったよ」

爺爺も速報を見て

爺爺「本当だ、幸は10位だね。内山さんと幸の差は1'04"だね」

爺爺「でも凄いわね。昨日も1位だった

し、自信をつけたね。地図が読めてるんだね。」

ゆき「自信じゃないよ、経験だよ。今日の場所は走りやすいし、地図を見てその方向に走ると簡単だったよ」

爺爺「そうだとすると内山さんよりスピードがあるとは思えないけどな」

ゆき「内山さんはきつとどこかでミスしたんだよ」

爺爺「来年から中学生になるし、部活によっては大会に出るのも大変だと思うが、瑞希君とか」WOCに出場した宇野夏樹君を目標にしたら爺爺はうれしいね」

ゆき「爺爺、それは無理だと思うよ。僕は冬のスキーOを頑張るからそっちの応援をお願いします」

爺爺「そうだな、あまり欲張らないでスキーOが上手になるようにそちらに集中するか」

ゆき「僕も世界の大会でマルクのようなメダルが取れるかな」

爺爺「それは幸の努力次第だな。簡単ではないけど可能性はある。頑張ってる爺爺にもいい夢を見せてくれよ」



競技者はメダルが最大の目標か？

米本路恵君、闘病

全快を信じて頑張れ！

この春学生生活を卒業し、新社会人としてトレイルOやフットOの地図調査や運営に期待されていた米本路恵君が思いもかけない病に倒れ、金沢市の病院で闘病しています。

病名は悪性のリンパ腫(血液ガン)私が知ったのは6月の終わりごろ、学生時代からオリエンテーリングに情熱を傾け、あらゆる講習会・研修会で知識を吸収し、IOF規則類集を勉強して何回か大会も開催した。

特に東北の学生クラブの改革に着手して、本年も10月の岩手大会イベントアドバイザーを引く受けていた。

病状から大会まで身体の回復はままならず岩手大の現地アドバイスは東北大会の先輩の佐藤時則氏にバトンタッチされた。

岩手大会に私も関わっているWOCが終わったある日見舞いに訪れたが、見舞いの言葉も掛けないうちに昼食をささんで3時間以上も彼の理想とするオリエン談義を戦わしてきた。

インターネットで作図者やプランナーに厳しい指摘のコメントを眺め、彼の快復に必要なのは抗がん剤に耐える肉体的な極限の頑張り、それに加えて精神的な意思を支えるためにオリエンテーリングの地図と話題が必要品だと強く感じています。

東北大会会場で彼の同期諸君が激励の言葉を書いて回覧している光景を目にしました。きっと投薬以上の効果をもたらしてくれていることを信じます

時間がある彼は、点滴の器材を引き連れながら病院の敷地でトレイルOの地図調査を始めたらしい。

どうか、これからお見舞いを考えている方々をお願いします。彼の学生時代の活動、今後のオリエンテーリングに賭ける米本君の情熱と信念を奮い立たせるように「貴君は日本のオリエンテーリング界で必要欠くべからざる人間である」事を激励の言葉で見舞って欲しいと思います。

米本君の一日も早い全快をお祈り申し上げます。

スキーO初すべりとスウェーデン合宿

爺爺「東日本と東北大会で頑張った幸に、爺爺は大きなプレゼントを考えているんだけど・・・」

ゆき「え！何？、スキーブーツかな？」

爺爺「品物じゃないんで、ママやパパに相談しないと発表できないんだ」

ゆき「何だか分からないけどうちはママが実権握ってるからママがよければいいと思うよ」

爺爺「おばあさんには相談してるんだが、幸本人がどうしたいのか聞いてからにしたら言うんだよ」

ゆき「留学？それは無理だよ、僕まだ英語会話できないもの」

爺爺「そんな大げさではないけど、爺爺が計画し募集しているスウェーデン合宿とスウェーデン

のスキーO大会参加の事なんだ」

ゆき「スウェーデン？ ぼく、北海道初すべり合宿だと思った。ママ言ったら、きっと良いいって言うと思うよ」

爺爺「丁度冬休み期間中だし、先生も許してくれると思うんだけど、おばあさんはそんな寒いところに連れて行くなんて可哀想だと言うんだよ」

ゆき「初すべり合宿にも行きたいなあ」

爺爺「初すべり合宿にも連れて行くけど、スキーのトレーニングに去年爺爺が買ってあげたローラースキーはやってるの？旭岳に行く前にローラースキーを練習しておかなくちゃ」

ゆき「ローラースキーを折角爺爺に買ってもらったけど、家の近くでは誰もやってないし一人では練習できないよ」

爺爺「爺爺も教えるために毎日米沢に通うには遠いしね、ローラーは余計だったかな？」

ゆき「僕、フットサルやサッカーで運動はしてるよ」

爺爺「スキーOは足だけの運動ではスタミナが持たないんだ。腹筋や背筋、それと腕や肩を強くする筋トレが必要なんだ」

ゆき「スウェーデンって堀江君が居るところでしょ、他に誰が行くの？」

爺爺「美和ちゃんと佳子さんは行く予定だよ。男性陣は休暇の都合が付かないのか今のところ誰も名乗り出ないね」

ゆき「僕も中学生や高校生になったら部活なんかでスキーOが出来なくなるのかな？」

爺爺「大会でよい成績を残すと学校や先生に認めてもらえるようになると思うよ」

爺爺「幸が良いんなら、ママに話してパスポートを申請してもらおうか」

